

別府の有名な温泉の噂が 19 世紀後半から 20 世紀初期に掛けて日本中に広がるにつれ、裕福な日本人がその地に別荘を購入し始めた。今日別府周辺の丘陵地にはこの時代からよく保存された別荘が点在しており、その中には国内外からの旅行者のための宿泊地として運営されている。このようなものの一つである山田別荘は、1930 年に山田英三によって建てられた。現在は旅館として運営されているが、この別荘は当時人気のあった日本と西洋の建築様式が融合したものとして建てられた。山田別荘は畳の和式の部屋と板の間の洋室の両方を取り入れて建てられ、居間のような西洋の建築要素を日本の家に取り入れている。旅館は山田英三の子孫によって運営されており、その子孫達はその屋敷を戦前の魅力を残しつつ近代的なものにした。